

## ＜ 分野を超えた教員の連携による長崎県立大学版サービス・ラーニングプログラムの確立—共生をテーマにした取り組み ＞

研究年度 令和 2年度

研究期間 平成31年度～令和3年度

研究代表者名 橋本優花里

共同研究者名 高 芳・中島洋・名切元貴美子・  
芳賀普隆・星野幸代

### I. はじめに

社会から大学教育への要望の一つに社会人基礎力の育成がある。これは単なる基礎学力や専門知識の獲得からだけでは醸成されない。社会人基礎力の醸成には培った知識の活用・応用が必要であり、そのためには2008年の中央教育審議会（答申）にも示されているように、学生に目的意識を持たせ、地域や産業との連携を深め、質の高い体験学習の機会を設けるような開かれた教育活動が重要である（飯田、2018）。そのような体験学習には、ボランティア、インターンシップなどが代表として挙げられるが、本研究ではサービス・ラーニングに着目した。サービス・ラーニングの表記については、サービス・ラーニングとするものや、サービスラーニングとするものがあるが本稿では、サービス・ラーニングに統一する。

サービス・ラーニングとは、「サービス（貢献活動）とラーニング（学習）をつなげ、ボランティア活動を学外で行い、その活動体験を通して学びを獲得することを目指す教育（村上、2007）」である。米国の大学では比較的良く行われている教育手法であり、各大学において特色ある内容が展開されている。本学では長崎県ならではの課題である離島振興を核にした「長崎のしまに学ぶ」という問題解決型学習が全学的に展開され、社会人基礎力を醸成する手法として一定の評価を受けている。またこの他にも、全学に導入されたインターンシップや海外ビジネス研修など、様々な体験学習が展開され、学生が培った「基礎学力」「専門知識」を活用・応用する機会が設けられている。しかしながら、各プログラムにおいては学生が社会とかかわるうえでの基礎的なマナーや能動的な行動力の不十分さを指摘する声が聴かれるのが現状である。そこで、本研究では、「長崎のしまに学ぶ」やその他の体験型学習の前後をつなぐ教育プログラムとしてサービス・ラーニングプログラムを確立したいと考えた。その際、高大接続の観点や専門に閉じないコモンセンスを共有し、それらを教育に生かすため、学部を超えた教員団を構成した。そして、共生という大きな枠組みのもと、1) 地域との共生に基づく地域課題解決、2) 自然環境との共生に基づく環境保全、3) 人種を超えた共生に基づく異文化理解の3つの分野でのサービス・ラーニングの在り方について検討を進めた。

本研究は3年間の計画で進められており、今年度は2年目にあたる。昨年度は、1) 地域との共生に基づく地域課題解決については大学周辺地域の安全マップ作りを、2) 自然環境との共生に基づく環境保全については大学の近くを流れる相浦川を中心としたフィールドワークや郷土史の専門家を招いての勉強会、そして自然体感イベントの参加を、3) 人種を超えた共生に基づく異文化理解については留学先の中国における自大学のアピールを行った。今年度は1) と3) の分野につ

いては新たに7名の学生を迎え、新しい活動内容も取り入れながら、プログラムの充実を図った。2)については、昨年度と同様に実践経済学科の2年生を対象とした基礎演習内で芳賀ゼミとしての活動を行ったことに加え、新たに3年生の専門演習としての取組みを行った。

## II. 活動内容

1. 地域との共生に基づく地域課題解決（担当：橋本、高、名切元、中島、芳賀）および人種を超えた共生に基づく異文化理解（担当：高、名切元、橋本）

コロナ禍の影響を受け、本活動の開始は当初の予定よりずいぶん遅れ、2020年11月中旬にメンバーの募集を開始した。メンバーの募集にあたっては、昨年度は全学必修科目「キャリアデザインI」でのチラシの配布のみにとどまったが、今年度はキャリアデザインIでの配布に加え、しまなびの授業に参加した2年生やしまなびにTAとして参加した3年生を対象に学習管理システムを通じて呼び掛けたほか、昼休みの時間に2回の説明会を開催した（配布したチラシについては、図1を参照のこと）。その結果、3年生1名、2年生1名、1年生5名の計7名の応募があった。

**サービスマーケティング メンバー募集のご案内**

**1. サービスマーケティングとは**  
 社会の要請に対応した社会貢献活動に学生が実際に参加することを通じて、経験的に学習するとともに、社会に対する責任感を養う教育方法です。  
 2019年度より、公共政策学科の橋本を中心とした研究メンバーは、大学から研究費を委託し、インターンシップや学外実習に向く皆さんの学びの準備の場としての、サービスマーケティングに関する研究と実践を行っています。

**2. 取組みの趣旨**  
 サービスマーケティングは、ボランティア活動や地域サービスとは異なり、専門領域と結びついた地域貢献活動を行うことに特徴があります。この取組みでは、専門領域を超えて様々な教員が集い、学生の皆さんと新たな知を生み出す活動を、**しまなびで取り組んだ津島が大学が位置する四国地域にて展開**していきたいと考えています。今年度しまなびで取り組んだ津島の課題に対する課題解決の提案の実現や、これからインターンシップや学外実習に出かける準備の一環としても、是非ご参加いただければと思います。なお、単位は付与されませんが、これからの皆さんの活動に必ず生きる内容にするべく、関係教員一丸充実した指導を目指します。  
**これまでの自分をもっと磨きたい、これまでの自分とは変わってみたい、新しいことにチャレンジしたい、そのような志を持った諸君をお待ちしています。**

**3. 研究メンバー（2020年度）**  
 橋本 優花里（代表者・公共政策学科）・中島 洋（地域連携センター）・名切元 貴美子（公共政策学科）・高 芳（公共政策学科）・芳賀 善隆（実践経済学科）


**4. 2019年度の実績**  
 2019年度は、以下の3つの分野での取組みを行いました。  
 1) 地域課題解決：地域の課題に関する勉強会への参加、大学周辺地区の安全マップ作製  
 2) 環境保全：「歴史からみる相浦地域の変遷と相浦川の関係性」をテーマにした地域プロジェクト活動  
 3) 異文化理解：留学先の中国の大学での自学アピール

**5. 今年度の内容**  
 昨年度と同様に、参加メンバーによるグループワークを中心に、地域課題の抽出とその解決に向けたフィールドワークを行います。今年度はコロナ禍により、活動できる期間が限られましたので、おおよそ以下のようなスケジュールで進めることができると見えています。

11月 メンバー募集	12月 地域課題抽出、解決法の提案
1月 フィールドワーク	2月 まとめと学内外報告会の実施

**サービスマーケティングに参加しませんか？**

サービスマーケティングとは、社会の要請に対応した社会貢献活動に学生が実際に参加することを通じて、経験的に学習をするとともに、社会に対する責任感を養う教育方法です。



2019年度より、公共政策学科の教員である橋本を中心としたメンバーは、課外授業の一環として、大学から研究費を委託し、インターンシップや学外実習に向く皆さんの学びの準備の場としての、サービスマーケティングに関する研究と実践を行っています。  
 詳細については、裏面をご覧ください。

**学部学科を超えた教員と、新しい学びに参加してみませんか？**

サービスマーケティングに関する説明会を以下の通り実施します。興味のある人は、まずは説明会に参加してみてください。

第1回説明会：2020年11月16日（月）12:30～12:50 図書館1階ラーニングコモンズ  
 第2回説明会：2020年11月19日（木）12:30～12:50 図書館1階ラーニングコモンズ

説明会への参加を希望される方は、人数を把握するために、右のQRコードを読み取り、申し込みフォームにアクセスしてください。または、学籍番号、氏名、参加希望日時を、連絡先アドレスを橋本（yukari@sun.ac.jp）までお知らせください。  
 なお、説明会への参加が難しい場合は、個別の説明を行うことも可能です。右QRコードの申し込みフォームか、メールにてその旨をお知らせください。




図1. メンバー募集のためのチラシ

12月上旬には第1回目のミーティングを行い、具体的な活動内容の選定に取り組んだ。短期間に効率よく活動内容を決定するため、リアルタイムでの共同作業ができるデジタルホワイトボード

Jamboard を活用し、ミーティング時間外でも意見交換ができるよう環境を整えた（図2）。また、活動状況の共有や確実な連絡手段の確保のために、サービス・ラーニング用の Google Classroom を立ち上げた。

当初、学生からは離島でのボランティア活動や離島での一人暮らしの方々の生活の現状についての理解、離島のニーズ調査など、しまなびを意識した内容が提案された。また、大学周辺のランニングコースのマップ作製やコース整備、地域住民へのボランティアや交流、佐世保市内および離島での通信基地局のマップ作成、相浦川周辺の生態系の調査や災害危険場所等の

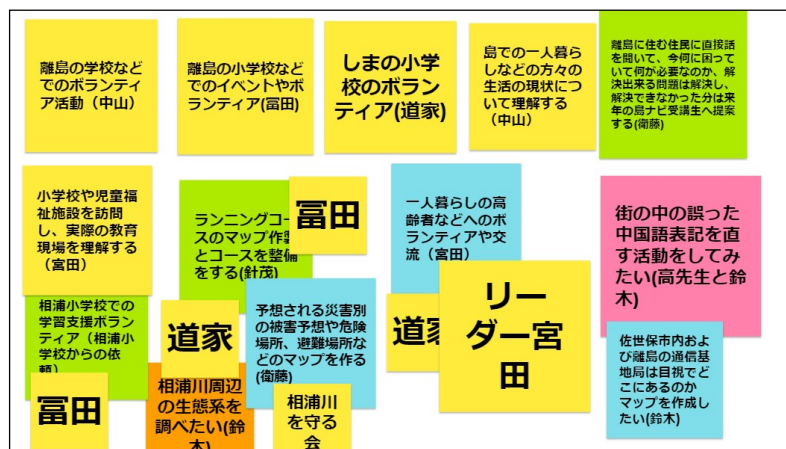


図2. Jamboard を活用した意見交換の例

マップ作成、観光地での外国語表記の収集と修正提案などの意見が出された。その後、数回のミーティングを経て、1) 地域との共生に基づく地域課題解決については地域のニーズ調査と学習支援ボランティアが、3) 人種を超えた共生に基づく異文化理解については観光地での外国語表記の収集と修正提案が活動内容として決定され、具体的な取組みを行った。

なお、昨年度は学生から選出されたリーダーが中心となって進めたが、ミーティングの進捗が滞ることがあったことや今年度のミーティングが昼休みという短い間で行われなければならなかったことを踏まえ、今年度の毎回のミーティングについては教員が進行することとした。また、ミーティングで決定した作業の実施については、学生から選出されたリーダーが指示や取りまとめを行ったが、スムーズな進捗を管理するために教員がリーダーに確認や促しを行った。

### (1)地域のニーズ調査

地域でサービス・ラーニングを展開するためには、大学との連携において地域が何を求めているかを知る必要がある。そこで、学生からの提案により、地域住民が集う佐世保市役所相浦支所と地元スーパーのエレナ相浦店に協力を得てニーズの聞き取りを行うとともに、大学近隣地域の回覧板を管理する相浦自治協議会に理解を求め、回覧板を活用したアンケート調査を行うこととした。また、近隣地域で「青空スイーツ」というお菓子の移動販売を行っているパルパンベーカーリーの代表者様にお会いし、青空スイーツの新たな展開について学生と意見交換をしていただいた。

#### 1. 聞き取り調査および回覧板を活用したアンケート調査

対象：大学近隣の住民

方法：調査を計画するにあたっては、まず、佐世保市役所相浦支所と相浦自治協議会にサービス・ラーニングについて理解を求め説明を行った。その後、学生が依頼文を作成し（補助資料1）、挨拶に伺った。

エレナ相浦店については学生が店長に電話によるアポイントメントを行い、挨拶に伺った。その後、決定された日時において佐世保市役所相浦支所およびスーパーのエレナ相浦店出入り口付近で学生による聞き取り調査を実施した。

調査内容：「日常生活での困りごとや要望」に関するアンケートとし、年齢、性別、困りごとについて聞き取り、または回覧板上でのアンケート用紙への記入を求めた。あいさつ文及びアンケート用紙の原案の作成はすべて学生が行い、教員はその修正を行った（補助資料2参照）。

結果および考察：現在、回覧板によるアンケート調査を回収中である。今後、結果を整理した後、報告会を開催する予定である。

## 2. 青空スイーツの新たな展開に関する意見交換

青空スイーツは、佐世保市内の菓子店とパン屋が行っている移動販売である。大学近隣の団地で週に1回販売を行っている。現地に伺った当日は、菓子やパンのほか、佐世保市里美町の野菜や漬物などが並んでいた。移動販売の開催日についてはポスティングによって周知しているとのことであったが、集客が課題であるということであった。また、移動販売車を止める場所についても地域の町内会長や周囲の理解を得て確保しているが、他の車の通行に邪魔になるという指摘もあるということであった。

青空スイーツの目的は、物販だけではなく、販売者とお客のコミュニケーションにある。何かを買ってもらうだけでなく、地域住民の方々とのコミュニケーションを図ることで、互いにとってより豊かな生活のひと時となりたいということであった。学生からは、近隣住民には米軍基地に勤める外国人も多いことから、ポスティングのチラシや商品の説明に英語を付記することが提案されたほか、よりコミュニケーションが促進されるよう、イートインスペースの設置を求める声も上がった。

### (2) 学習支援ボランティア

学習支援ボランティアについては、当初、離島での活動を視野に入れて計画を立てた。学生が小値賀、高島、黒島などに関連する教育委員会や学校を対象に依頼文を作成し（補助資料3参照）、送付した。しかしながら、ちょうど年度末に差し掛かったこととコロナ感染が再び拡大したことから、ボランティアの受け入れは困難であるという回答を得た。

一方、地域の相浦小学校から4年生のクラスへの学習支援ボランティアの派遣の要請があり、サービス・ラーニングのメンバー2名が参加した。この成果については、報告会にて発表予定である。

### (3) 外国語表記の収集と修正提案（担当：高、名切元、橋本）

活動実施時間：2021年1月から3月末

活動担当者：高、名切元、橋本

活動目的：長崎県の観光・サービス施設の外国語表記の現状を調査し、誤表記を見つけ、正しい表記案を提供することを通して、大学で培った語学力を生かして地域の国際化発展に貢献する。

活動場所：長崎県の観光・サービス施設

活動の経過：県立大学の英語授業と中国語授業の設置科目は、他大学に比べて種類も時間数も多い。また、毎年検定試験やスピーチコンクールに参加する学生も多い。そこで培った能力を生かして地域社会に貢献したいというのが、サービス・ラーニングプログラムを立ち上げたときからずっと考えていたことである。今回、外国語表記の収集と修正提案活動を行うことになったのは、長崎市や佐世保市に来ている留学生や外国人観光者の声がきっかけである。観光・サービス施設に外国語表記が不足していて、誤表記も多いため、不便を感じているというものであった。そこで、県内の観光・サービス施設に足を運んで、外国語表記について調査・収集し、誤表記を修正し、正しい

表記のアドバイスを提供するという案が生まれた。

参加者の募集時はコロナ禍の最中で、調査のために公共交通機関を利用することによるコロナ感染の恐れがあった。そのため、参加を強く呼びかけることができず、応募者は二人だけだった。活動を継続するために、教員らの自家用車に同乗する形で、外国語表記の収集を行ってきた。期間中、学生と教員は、佐世保市、長崎市、波佐見町、有田町など県内外の十数箇所に行き、百以上の外国語表記の看板や説明を見て、60以上の誤表記を撮影し、資料として google classroom にアップロードした。今後は、興味がある学生たちに、これを分析し、直してもらう予定である。

今後、外国語表記の資料をさらに多く収集するために、活動に参加した学生が、長崎県の主催する中国語スピーチコンクールに出場し、サービス・ラーニングプロジェクトの活動の目的、進捗状況を県民に報告した。同時に、多くの外国人が長崎を楽しく旅行し、安心して暮らせるように、一緒に外国語の誤表記を探して修正していくよう県民に呼びかけた。このスピーチは、内容が高く評価されて優秀賞を獲得した。発表した学生は、中国政府奨学金を獲得して、九月から中国へ留学に行く予定である。

活動結果：この活動については、期間内に期待した結果をまだ得られていないが、現場調査で分かったことが何点かある

その1：外国語標記・説明が全くない、あるいは少ない公共施設がある。例えば佐世保市の森きさらら、長崎港など。

その2：外国語表記はあるが、ネイティブチェックをしてもらっていないため、誤訳、誤表記が多々見受けられる施設もある。

その3：観光施設の問題だけでなく、施設内に部品を納入しているメーカーの問題でもある。例えば、稲佐山公園のお手洗いの座便器に書いてあった中国語の説明は間違いだらけであった。

これから学生と一緒に収集した資料を分類、分析し、誤表記を修正したうえで、正しい表現をまとめた冊子を作り、観光・サービス施設を訪問し、冊子を呈上する予定である。同時に、県内の外国人観光・生活環境整備の一環として、今後の外国語表記の作成に関する手伝いをしたい旨を伝える。学んで実際に役立つ、実際に役立つために学ぶ、というサービス・ラーニング精神を貫いて、地域に貢献していきたい。

## 2. 自然環境との共生に基づく環境保全（担当：芳賀）

長崎県立大学地域創造学部実践経済学科2年生 基礎演習・芳賀ゼミでは、2019年度以降のゼミ活動において、地域実践の観点から地域プロジェクト活動を行った。長崎県立大学の周辺地区や相浦川周辺（大学周辺）について知ること、環境の視点（水環境改善など）から魅力的な地域にしたい、そして環境を学ぶゼミとして何か地域に貢献できることはないか、という問題意識から地域プロジェクト活動を立ち上げたものである。基礎演習に関しては、今年度で2年目の取り組みである。また、3年生の専門演習では、新たな試みとして地域プロジェクト活動を行ったので、2020年度（今年度）が初めての取り組みである。なお、本プロジェクト活動では、学長裁量教育研究費におけるサービス・ラーニングプロジェクト（共-2、代表：橋本優花里）と連携して取り組んでいる。

### (1)基礎演習（2年生）における2020年度の活動

2020年10月からは、前年度の活動を経験した上級生による、昨年度の地域プロジェクト活動の紹介も交えつつ、地域プロジェクト活動に向けての相談を行った。また、佐世保市の環境政策、相浦地域、相浦川について調べ、学生間で分担し輪読するとともに情報共有を図った。2020年10月22日（木）には相浦川及び木宮町周辺のフィールドワークを実施し、その後のゼミでフィールドワークをもとに、各自が気づいた地域課題の洗い出しや考えたことについて、KJ法を用いて行った。

11月には、相浦地区の地域課題の中から、学生自身がテーマ・トピックを選び、文献調査やフィールドワークを実施した。具体的には、川下地区のポイ捨てごみの実態について、ゼミ生全員で手分けして自主的に調査を行い、調査した結果の集計、集約を行った。2020年12月17日（木）には、芳賀ゼミ2年・3年合同の地域プロジェクト活動報告会において活動・調査内容を発表して、上級生との意見交換を行った。

### (2) 専門演習（3年生）における2020年度の活動

2020年10月には、昨年度、基礎演習2年ゼミで地域プロジェクト活動を経験したゼミ生による活動の紹介を行い情報共有するとともに、テーマ・トピック、目的、方向性に関する話し合いを行った。次に、2020年11月3日（火）には相浦川、木宮町からMR（松浦鉄道）相浦駅周辺のフィールドワークを行った。

次のゼミの時間以降、フィールドワークをもとに、各自が気づいた地域課題の洗い出しや考えたことについて、地域課題の洗い出しやテーマ・トピック及び取り組む目的の絞り込みに関してKJ法を用いて行うとともに、活動計画、調査計画の具体化を行い、2チームに分かれてグループワークを実施した。その後、相浦地区の地域課題の中から、学生自身がテーマ・トピックを選び、文献調査やフィールドワーク、アンケート調査を実施し、調査した結果の集計、集約を行った。

2020年12月17日（木）に、芳賀ゼミ2年・3年合同の地域プロジェクト活動報告会を実施して2年生との意見交換を行い、発表内容についての修正等を行った上で、2020年12月20日（日）合同ゼミ報告会（於：長崎県立大学佐世保校）にてAチーム、Bチームとも活動や調査の成果について発表した。

### (3) その後の展開

2021年2月下旬に基礎演習、専門演習のゼミ生に集まってもらい、2020年12月の地域プロジェクト活動報告会や合同ゼミ報告会で出された意見及び課題をもとに、地域プロジェクト活動における1年間の活動の取りまとめに向けて、パワーポイント資料修正やレポート作成、成果発表に向けての話し合いの場を設けた。2021年3月には2月下旬に話し合った内容をベースにしながら、チームごとにパワーポイント資料の修正やレポート作成をゼミ学生達に行ってもらっている。

今後に向けては、大学と学生、地域を結びつけるような活動に徐々に発展させていくために、学内外での成果報告会も年度明けに予定している。

## III. まとめと今後の課題

今年度は3年間計画の2年目の活動ということで、ミーティングの開催の調整やテーマ決定までに昨年度ほど労力を要しなかったように感じた。それには、もちろん1年目の経験があったからということも考えられるが、Google Classroom や Jamboard などのオンラインツールを利用したことで、ミーティングの時間外でも情報交換や意見収集が可能になったことがあるだろう。また、昨

年度は学生の自発的な活動の継続が課題として挙げられたが、今年度は学生リーダーのリーダーシップの下、テンポよく活動が進められた印象を受けた。これには、学生リーダーの素養もあったと考えられるが、昨年度に比して、学生の自発性に全て任せ、教員は見守りに徹するのではなく、ミーティングを進行したり、進捗を管理するために教員が気づきを促してフォローしたことも影響していると考えられる。

今年度も昨年度と同様にコロナ感染拡大の影響を受け、予定していた離島での学習支援ボランティアを実現できなかつたり、報告会が翌年度に食い込むなど、サービス・ラーニングの計画や活動に大きな影響が生じた。最終年度となる次年度では、コロナ禍でどのような活動が可能なのかを再考し、新たな活動の在り方について検討する必要があるだろう。

先述のように、今年度の活動の成果の報告会は次年度に行われることとなった。充実した報告会となるよう学生と共に準備を進めていきたい。

#### IV. 引用文献

飯田昌子 (2018). ゼミ活動におけるサービス・ラーニングに関する一考察 鹿児島大学法学部  
紀要人文学科論集, 85, 1-13.

村上むつ子 (2007). 地域貢献活動を学習に“サービスラーニング”の試み 教育学術新聞第 2259  
号 ([https://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2259/3\\_3.html](https://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2259/3_3.html))

令和 3 年 2 月 22 日

佐世保市役所相浦支所様

長 崎 県 立 大 学  
サービス・ラーニング 学生一同

**「地域住民に対するニーズ調査」における聞き取り調査について（お願い）**

拝啓 向春の候、貴所ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本学の教育にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、長崎県立大学の学生・教員からなるグループは、学長裁量教育研究として「学生・教員の連携による長崎県立大学版サービス・ラーニングプログラムの確立(テーマ:共生)」に取り組んでおります。

具体的には、大学周辺地域への貢献を目指しており、そのために大学周辺の地域住民の方々のニーズを調査し、さらにそのニーズに応える活動を計画していきたいと考えております。

つきましては、突然のお願いで誠に恐縮ではございますが、下記要領にて貴店舗（貴所）での地域住民の方々への聞き取り調査の実施にご理解とご協力を賜りたいと思っております。

ご多用ではございますが、ご高配いただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

**1. 期間**

令和 3 年 2 月 24 日～令和 3 年 2 月 26 日までを予定していますが、ご相談させていただきたいと存じます。

**2. 聞き取り調査場所**

支所入り口付近を考えておりますが、ご相談させていただきたいと存じます。

**3. 目的**

地域住民のニーズに応えた活動を行うことが地域貢献であると考え、大学周辺の地域住民が多く利用する貴所におけるニーズの聞き取り調査を実施したい。

**4. 聞き取りの内容**

性別・年代・居住地区

私たち大学生（地域に貢献したいと考えている）にしてほしいこと

**5. 指導教員**

高 芳・中島 洋・名切元・貴美子・芳賀 普隆・橋本 優花里

**6. 連絡先**

橋本 優花里 E-mail : yukari@sun.ac.jp TEL : 0956-59-6777

何かご不明な点がございましたら、こちらにご連絡ください。

以上



## サービス・ラーニングとは？

社会貢献活動に参加し、経験的学習、社会に対する責任感などを養う教育方法のことです。ボランティア活動や地域サービスとは異なり、大学での専門知識と関連付け、より実践的な経験を積むことに特徴があります。

長崎県立大学では、2019 年度より、インターンシップや学外実習に出向く学生の学びの準備の場として、サービス・ラーニングを活用し、研究や実践に取り組んでいます。

これまでの活動は以下の通りです。



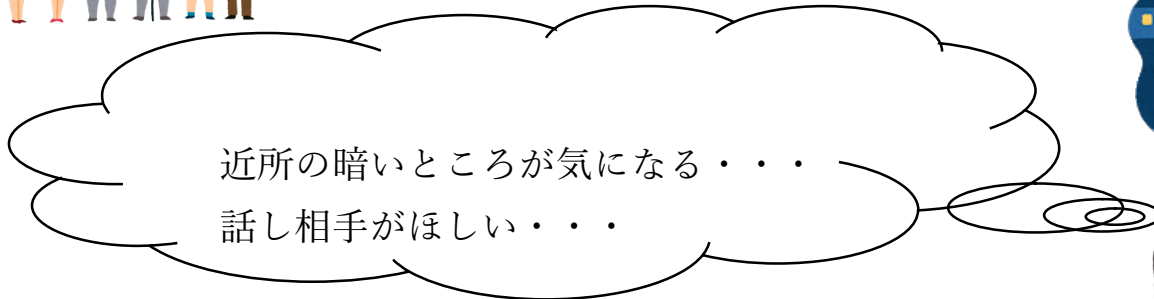
地域課題解決	・防犯マップの作成
環境保全	・文献調査及び相浦周辺のフィールドワーク ・郷土史の専門家を招いた勉強会
異文化理解	・留学先（中国）での長崎県立大学の紹介

### 困っていることはありませんか？

今年度は、地域住民の皆様と学生との間でより密接な関係構築を目指すために、地域の皆様が日常生活でお困りのことを調査したいと考えています。



「近所の暗いところが気になる」「話し相手がほしい」など、ご自宅や地域で学生が力になれることはありませんか？  
皆様のご意見、ご要望をお待ちしております。



長崎県立大学サービス・ラーニング学生一同

## 「日常生活での困りごとや要望」に関するアンケート

年齢、ご職業、困りごとおよびご要望をお聞かせください

年齢	性別	困りごと
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	例) 街灯がなく、夜通ると暗い道がある。
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	
10~20代 30~50代 60~70代 80代以上	男 女	

令和 3 年 1 月 21 日

小値賀町教育委員会  
教育長 吉本勝信 様

長崎県立大学  
サービス・ラーニング学生メンバー 一同  
(代表 実践経済学科 宮田飛翔)

小値賀町立小値賀小・中学校でのサービス・ラーニング実施について（お願い）

拝啓 厳寒の候、貴職におかれましてはこの度の災禍に大変なご尽力をなさっていらっしゃるものと拝察しております。

さて、本学学長の依頼文にもありましたように、この度サービス・ラーニングという取り組みの一環として小値賀町立小値賀小・中学校での活動を計画しております。活動内容としては学習支援を中心に検討しておりますが、そのほか私たちに出来ることがあれば取り組みたいと考えております。学生メンバー一同は小・中学校を訪問の上活動させていただき、これからの学習につながるよう様々なことを学ばせていただく所存でございます。

コロナ禍という中で無論感染症対策を講じた上で、取り組ませていただきます。

ご判断が難しいこととは存じますが、何卒ご高配いただきますようお願い申し上げます。

敬具

学生メンバー（参考）

実践経済学科

1 年 宮田飛翔、 富田欧介

公共政策学科

1 年 中山智華、道家縁、針茂沙妃

経営学科

2 年 衛藤咲葵

国際経済学

3 年 鈴木直緒